

## アーナンダ病院を訪問して

広島大学医学部医学科 5年 熊野 梨奈

2011年8月14～16日、インドの医療について学ぶため、大学の夏休みを利用してアーナンダ病院を訪問させていただきました。

Dr. グプタに、インドに多い疾患や国の医療制度などについてお話を伺ったり、行事に参加させていただいたり、また病院付近の村を訪れたり、貴重な体験をさせていただきました。

インドというと、感染症が多いというイメージを持っておりましたが、最近は食生活の変化に伴い、高血圧や糖尿病など、日本で非常に多く見られるような疾患が増えているということを伺いました。そのことについて、初めは少し意外のように感じましたが、実際にインドで食事をすると、油っこい食べ物や甘いお菓子・砂糖たっぷりのチャイなど、いわゆる生活習慣病に通ずる要素がたいへん多いということに気がきました。

もちろん、マラリアのような熱帯性の疾患も含め、未だにインドでは感染症も多いといえます。数日間インドで生活してみて、やはり衛生面などにおいては、日本と比較するとはるかに劣っていると感じました。教育を十分に受けていない人が多く、感染症対策を知らない、理解していない人も多いようです。

Dr は、インドにはこれらを改善するために、様々な素晴らしい政策が存在しているとおっしゃっていました。ただ、教育が行き届かないことなどにより、実際に機能するのは、それらのうちほんの僅かだということでした。

アーナンダ病院では、診療のみならず、そういった教育にも力を入れておられました。16日には診察を見学させていただきましたが、その合間に、マラリア対策についての講義を、Dr が待合室の患者さんにされておりました。特にアーナンダ病院のある地域では、貧しく教育を受けられない人が多いということで、そのような取り組みはより一層重要だと感じました。

Dr の診察はとても丁寧で、ひとつひとつ、私に解説してくださりました。私が日頃見ている、大学病院での診療との大きな違いは、確定診断を下す前に、治療を開始することだと感じました。大学病院では多くの場合、診察後に必要な検査を行い、その後治療方針を決定しますが、アーナンダ病院では、Dr は診察のみで患者の病態や疾患を推測し、治療を開始されます。インドには、日本のような保険制度が存在せず、そのため貧しい人々は十分な医療を受けることができません。様々な検査にはお金がかかるため、その費用をカットするため、検査の前に治療を始め、その効果を見て判断されるということでした。それでも多くの場合、治療効果があるということで、Dr の診断能力の高さに驚きました。物資などが限られるインドの農村部において、医師として、いかに最善の医療を提供するかということについて、Dr とお話し、実際の診療を見学させていただく中で、深く考えさせられた3日間でした。インド福祉村村協会の皆様、お忙しい中熱心に指導してくださった Dr. グプタ、他アーナンダ病院スタッフ、滞在中とても濃密で有意義な時間を過ごすことが出来ました。心より、感謝申し上げます。

2011年8月19日